

# TUAD IS HERE

日常の中の芸工大

WEB

R コモンズが「山形」を持ち込んで、外苑ピクニック。(NIPPON ARTNEXT 2010)

一週間にわたり、外苑キャンパスのこけらおとし展として開催された、日本の芸術の未来を考える企画展(NIPPON ARTNEXT)。芸工大からは山形R不動産のリノベーション物件で共同生活をしている(R コモンズ)が「ピクニック」をテーマにした作品を出展しました。作り上げたのは「R」の文字が大きく入ったラグや陶器の食器などで、会場ではカラー作りのパフォーマンスを披露。熊の剥製や旗、テーブルを持ち込んで、どこでも楽しんで自分たちの空間にするという、表現に対するしなやかな姿勢を表しました。会期中は山形を感じさせる作品に囲まれながら、シンポジウムも開催されました。

R コモンズメンバー  
ミサワクラスと花小路トラックで暮らす19人の学生、アーティストたちが構成するR コモンズ。共同生活を送りながらライフスタイルそのものを創造する、様々な活動を行っています。立花泰香さん、根本裕子さん、黒宮亮介さん、望月梨絵さんが在籍。



## 表紙のART

WEB



身につけた技術と知識で現代アートを蘇らせる。  
美術史・文化財保存修復学科 4年  
石井千裕 / 宮城加奈子

芸工大の文化財保存修復研究センターでは美術館などから依頼を受け、美術作品の修復を行っています。本年度、美術史・文化財保存修復学科を卒業する石井千裕さんと宮城加奈子さんが卒業研究として手がけているのは、青森県立美術館から依頼された「とある玩具店のショーウィンドケース」シリーズの二作品。絵具の剥離止め、埃やカビの除去、アルミフレームでの構造強化など、修復には様々な技術と知識が必要とされます。また、この作品には本物の水道の蛇口やめざしの干物などが使用されていて、作品への理解と配慮ある修復が進められています。

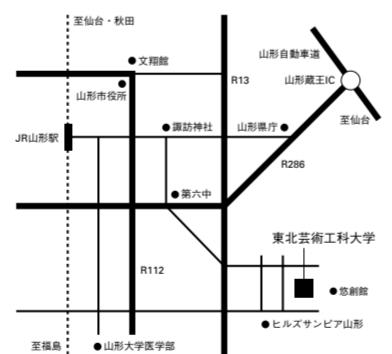
## 「g\*g」とは？

芸工大広報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」は芸工大であり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！ このデザインがすごい！ 景観がきれい！ こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」。親しみを込めて「ジージー」と呼んでください。広報室では、「g\*g」を置いていただけるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

## 東北芸術工科大学

- ◎芸術学部
  - 文芸学科(2011年4月新設)
  - 美術史・文化財保存修復学科
  - 歴史遺産学科
  - 美術科[総合美術 / 日本画 / 洋画 / 版画 / 彫刻 / 工芸(漆芸・陶芸・金工) / テキスタイル]
- ◎デザイン工学部
  - 企画構想学科
  - プロダクトデザイン学科
  - 建築・環境デザイン学科
  - グラフィックデザイン学科
  - 映像学科
  - メディア・コンテンツデザイン学科
- ◎大学院芸術工学研究科
  - 博士後期課程 芸術工学専攻
  - 修士課程[芸術文化専攻 / デザイン工学専攻 / デザイン工学専攻 仙台スクール]
- ◎研究機関
  - 総合研究センター / 東北文化研究センター / 文化財保存修復研究センター / こども芸術教育研究センター / デザイン哲学研究所 / 東アジア芸術文化研究所 / 社会芸術総合研究所

## 大学周辺略図



## 東北芸術工科大学広報誌 g\*g

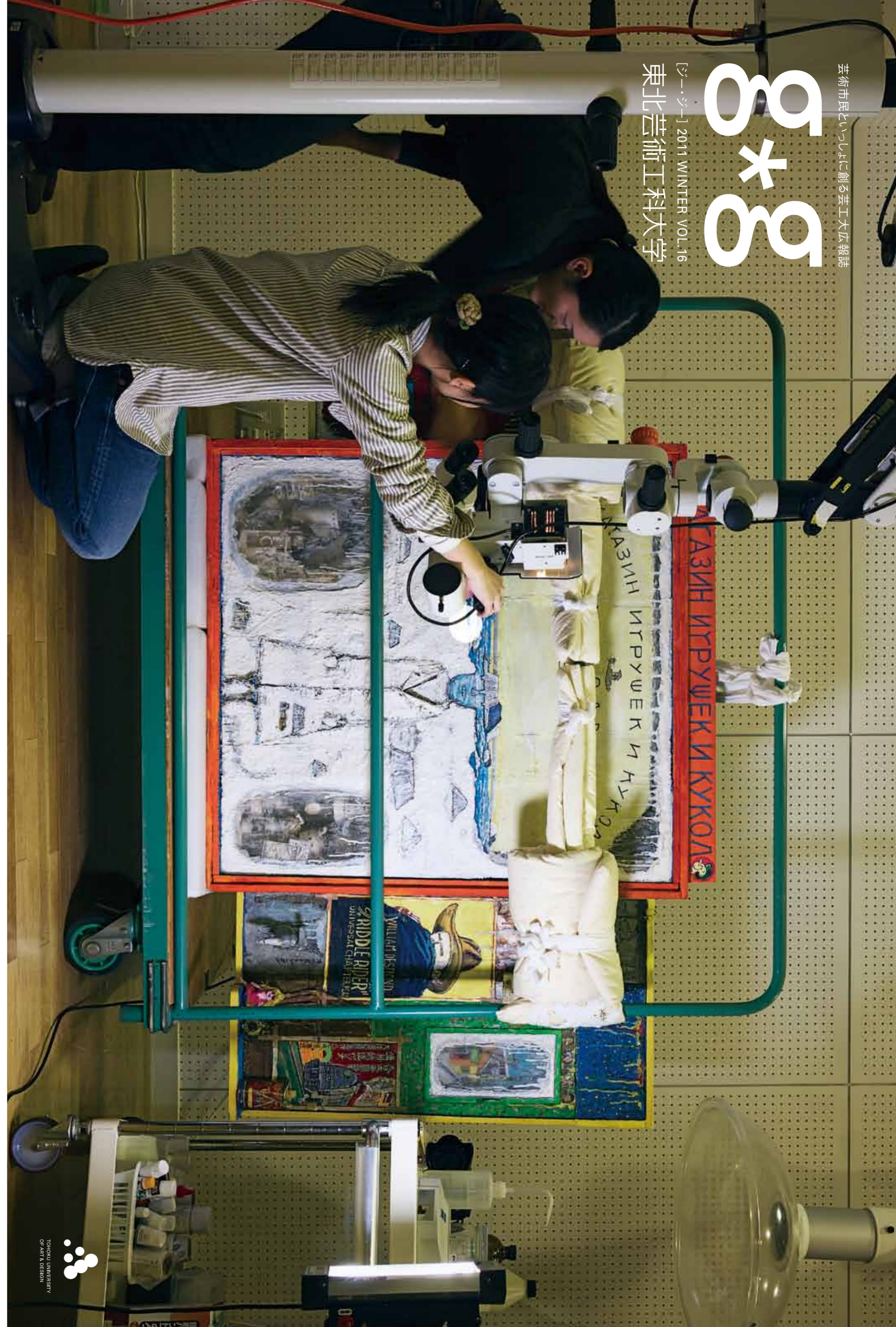
2011年1月14日発行  
発行: 学校法人東北芸術工科大学  
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5  
東北芸術工科大学広報室  
TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185  
WEB: www.tuad.ac.jp  
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design: FLOT  
Printing: Tamiya Printing Co., Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2011

g\*g  
[ジー・ジー] 2011 WINTER VOL.16  
東北芸術工科大学

芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌

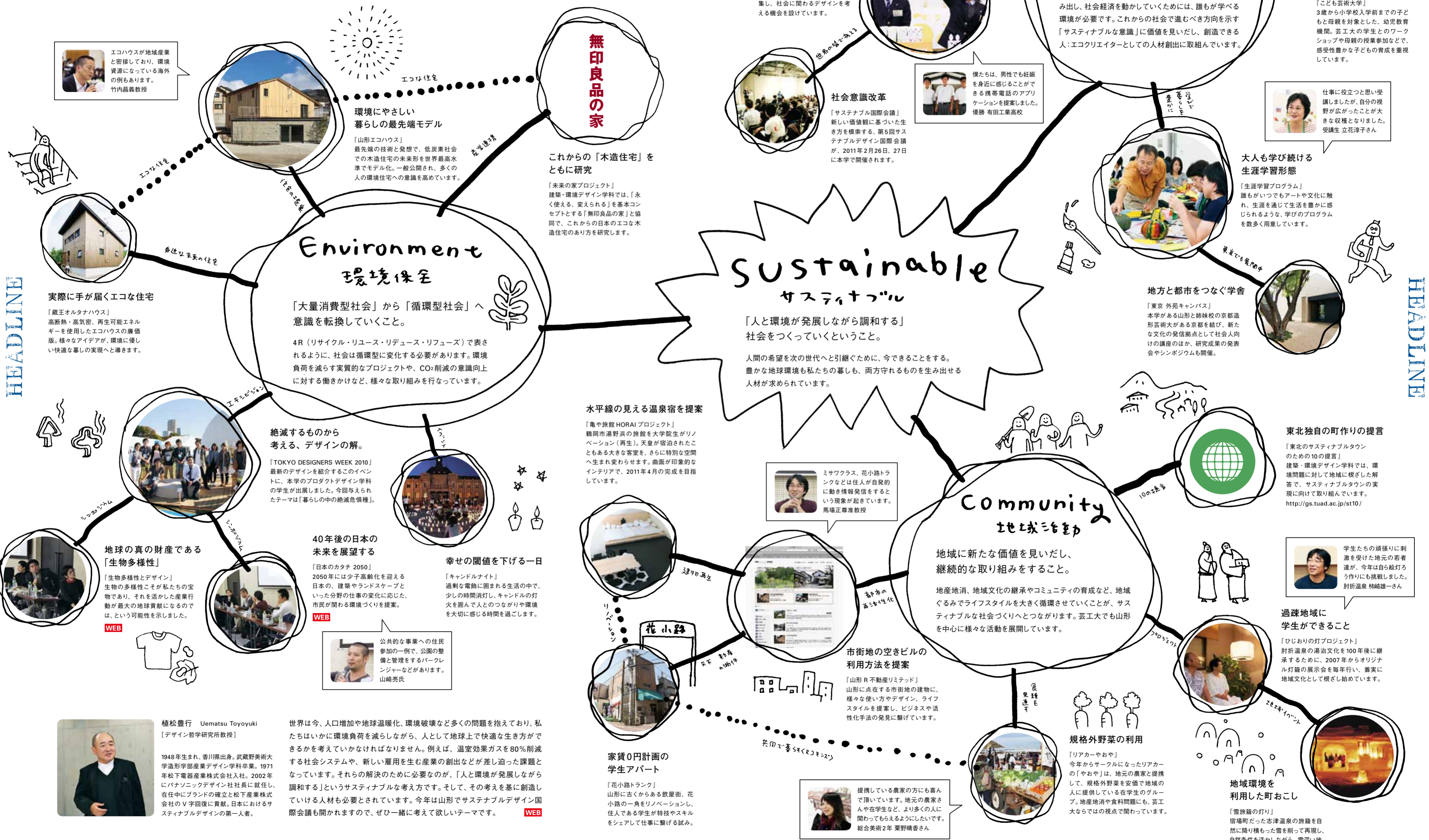


TOHOKU UNIVERSITY  
OF ART & DESIGN

# サステイナブル ★ 芸工大

## 「サステイナブルデザイン」って？ 芸工大が生み出す相関図。

新聞やテレビなどでも最近度々耳にする、これからの世界のために欠かせないと言われる「サステイナブル」という考え方は、ものづくりにも密接に関わっています。「持続可能な」と訳されるこの言葉ですが、その本質は人と環境との発展と調和を保つこと。芸工大でもこの考え方が結びついた多くのプロジェクトを通じて、これから求められる人材の育成を目指しています。今回は、その活動を紹介しながら、「環境保全」「社会関係」「地域活動」の3つの視点を軸に、そもそもサステイナブルとは何なのか、そしてデザインとのつながりを考えてみました。



# 学生、企業、専門家、様々な分野や立場から 取り組まれている、サスティナブルデザイン。

人と環境が発展しながら調和するというサスティナブルな考え方は、これからのものづくりに不可欠なこと。そのサスティナブルデザインという視点で、世界中のものづくりに新しい動きが生まれています。ここでは、前ページに登場した芸工大が取り組むプロジェクトの中から、ものづくりの例をいくつかピックアップ。その詳細を具体的に紹介していきます。



「環境 × デザイン」というテーマで開催された〈東京デザイナーズウィーク2010〉。本学ではプロダクトデザイン学科の学生が『暮らしの中の絶滅危惧種』を考え、独創的な作品を発表しました。



「スナバタ」  
西條航 Saijiyo Wataru  
プロダクトデザイン学科3年

「wasted wood ~消費される森林~」  
坂西亮 Sakanishi Akira  
研究生

「stamp」  
齊藤翔太 Saito Shota  
プロダクトデザイン学科3年

円形の台座に白い砂を敷き詰めた「スナバタ」。「絶滅危惧種」を、大人になると失われつつある「砂場で遊ぶようなリラックスした時間」「砂場のような知らない者同士がたむろう空間」と捉えた作品。腰かけながら隣り合ったり向かい合ったり、訪れた人が和やかに輪になる空間を創出しました。

木の形をしたお香に火を点け、香りを楽しんでいるうちに形が崩れ灰になっていく過程が、現在進行している森林減少を表現しています。「日常生活ではあまり感じることのない環境問題について考えるきっかけになれば」という坂西さん。漂う香りとともに考える時間を与える作品です。

衰え失われつつあるものを「現代人の身体機能」と捉え、踵の無い地下足袋のような作品「stamp」。「身体機能を保つ正しい歩き方や正常な足の形を調べ、今の形ができました」という齊藤さん。踵が地につかないことで足の指の力を使う必要があり、足本来の機能を守る作品です。

PICK UP



※写真は山形エコハウスのインテリアで、イメージです。

建築・環境デザイン学科 × 無印良品の家のコラボが実現。まずは、住宅性能をはかる新しい「ものさし」づくりから。

木造であること、温熱性能を追求することなど、これからの住宅のあり方に対する考え方などに共通点が多かったことから、「無印良品の家」と芸工大の「建築・環境デザイン学科」とのコラボレーションが実現。「未来の家プロジェクト」として、これまで以上に環境に配慮した持続的で、快適かつ健康的な住まいを共同研究し、提案していきます。芸工大が「山形エコハウスの設計・建設」などで検証したデータやノウハウと「無印良品の家」と芸工大の「建築・環境デザイン学科」とのコラボレーションが実現。「未来の家プロジェクト」として、これまで以上に環境に配慮した持続的で、快適かつ健康的な住まいを共同研究し、提案していきます。

第1回シンポジウム『わたしと地球にやさしい家』参加者募集中！  
日時：1月21日(金) 18:30 - 20:30 / 会場：外苑キャンパス(東京都港区北青山1-7-15) / 定員：90名(※予約制、先着順) / お問い合わせ：無印良品の家 MUJI 新宿 家センター (TEL: 03-3353-7752) / WEB: http://www.muji.net/lifestyle/project\_mirainoie/  
※配送日の都合で本紙がお手元に届いた時点で満席となっている恐れがありますので、ご容赦願います。

地域から見える将来ビジョンが未来を開く！？  
サスティナブルデザインの最先端、国際会議が山形で開催されます。

議論のテーマが環境問題から文明、文化の問題へと広がっている(サステナブルデザイン国際会議)。これまで関東周辺で開催されてきた国際会議が、今回は山形の芸工大で開催されます。地域に育まれてきた文化、産業、暮らしの価値を再発見することで実現できる未来を描き出すことが期待されています。サスティナブルデザイン研究の第一人者である植松豊行教授も「ものづくりと発展をどう両立させていくか、という問いに解を得られる会議になるでしょう」と期待を寄せています。多くの有識者が意見を交わす国際会議は、会議といつても広く皆さんに開かれたイベントです。ぜひご参加ください。

『第5回サステナブルデザイン国際会議』参加者募集中！  
●基調講演会 日時：2月26日(土) 9:30 - 18:00(9:00受付開始) / 会場：東北芸術工科大学 本館3階 201講義室 / 定員：300名(英日逐次・日英同時通訳) / 要事前申込 ●分科会 日時：2月27日(日) 9:30 - 18:00(9:00受付開始) / 会場：東北芸術工科大学 本館3階 各講義室 / 定員：200名(50名×4室) (逐次通訳) / 要事前申込  
お問い合わせ：エコデザイン研究所内 サステナブルデザイン国際会議事務局 (TEL: 03-6826-1511) / 東北芸術工科大学 デザイン哲学研究所 (TEL: 023-627-2307) ●WEB: http://www.sustainabledesign.jp/



いろいろ話をしたいので、卒業生と飲む機会があったらぜひ私も呼んでください。

そうだね。信念を持って仕事がんばれ、相談にものるから。

渡部侑希 Watanobe Yuki  
宮城県生まれ、仙台南高等学校出身。2009年、大学院修士課程環境デザイン領域修了。仙台市内で学校、病院、庁舎など、公共建築物を多く手掛ける「間・空間設計」に入社。現在は、小学校校舎の設計に携わり、関係者との意見交換会やワークショップを実施するなど、地域の人々との交流にも力を入れている。

竹内昌義 Takeuchi Masayoshi  
神奈川県生まれ。専門は、建築・家具・都市デザイン、空間の造形に関する一切のこと。1995年に友人3人と建築設計事務所「みくみ」を共同主宰。愛知万博ではトヨタグループ館とフランス・ドイツ共同館(2005年)を、横浜開港150周年記念事業では、「Y150 はじまりの森」(2009年)などを設計。

## 芸工大OG \* 教授

### こだわり抜く強さに成長をみた、花屋さんでの再会。

学部4年、修士1・2年の3年間、竹内教授のもとで設計を学んだ渡部さんは、教授の多才な活躍に憧れていた一人。卒業後、恩師のアドバイスを受けながら、オーナーにも喜ばれる個性あふれるフラワーショップを実現させることができました。

2010年9月、仙台市長町にフラワーショップ「花創作・莓いちえ」がオープンしました。その店舗設計を担当したのは、大学院環境デザイン領域修了生の渡部侑希さん。2008年に実施された新しいフラワーショップの店舗デザインコンペでグランプリを受賞した渡部さんの提案「えんがわのある花屋さん」が2年の時を経て実現したのです。コンセプトはそのままに、出店場所の立地や広さ、形状に合わせた調整をオーナーからお願いされた建築・環境デザイン学科の竹内昌義教授は、卒業して仙台市内の設計事務所に勤務している渡部さんに改めて対応を依頼しました。渡部

さんは是非自らの案を実現させたいと快諾。心強い竹内教授のサポートと、出店場所が渡部さんの実家近くという偶然も味方して、勤務先の仕事にも支障なく設計監理を務めることができました。生花店としては珍しい白い内装や明るい木目の床、縁側に代わる窓辺のテーブル席など、優しい空間の花屋さんとしてお客様からの評判もよく、当初は渡部さんのこだわりに押し切られた感じのオーナーも今では大いに満足しています。その仕事ぶりを通して竹内先生は「学生時代は、もう少し押しの強さがほしいと思っていましたが、今回は頑張りを見せてくれました。相手の思いを聞いた上で、押しの強さが私たちの仕事には必要なんです」と渡部さんの成長を実感した様子。「押しの弱さは、職場でもよく言われていて、自分でもまだまだだと思っています。雑誌などで竹内先生の作品を見て、その凄さに圧倒され、いろいろ相談したくなります」と恩師の世界的な活躍に設計士として注目している渡部さん。設計事務所にはそれぞれのやり方があるから具体的なアドバイスはできないといいつつ「何かあったらいつでも」という竹内教授の言葉に表情をほころばせていました。美しい花に囲まれての久々の再会は、お店の優雅な雰囲気の中、穏やかな時間となりました。



上：渡部さんが設計監理を担当したフラワーショップ「花創作・莓いちえ」の店内。中央のテーブルは人が集う緑側の空間で、フラワー教室なども行われる。下：竹内昌義教授が設計した「Y150 はじまりの森」。横浜みなとみらいで2009年に開催された、横浜開港150周年記念事業「開国博 Y150」のパビリオン。巨大アート、展示スペース、レストランや記念品ショップ等からなる複合施設。

INTERVIEW

### 建築・環境デザイン学科

建築や住空間から、それを取り巻く街や都市、自然や景観を学びます。21世紀のライフスタイルを考えると、人々の暮らしや建築の設計やデザインだけでなく、環境のことも併せて考えなければなりません。それら実際のフィールドを通じて学ぶには、山形の豊かな自然環境や伝統、都市の規模は絶好のポジションです。



### プロダクトデザイン学科

雑貨、家具、家電、自動車などの製品、住宅や店舗などのインテリア、公共空間やディスプレイまで、私たちの生活を支える、製品や空間を創造するデザイナーを基礎から養成します。素材の持つ可能性や、言葉からの形態発想など、枠組みにとらわれない実験的なデザイン探求の精神を大切にしています。





## OPEN GALLERY

## 生涯学習プログラム 公開レポート②



左:スケッチブックを見開きで使い、山の上に広がる空を描くことをアドバイスする松本学長。右:自然の美しさに感嘆の声をあげた後は、思い思いの場所でスケッチブックを広げます。仙台、新庄、岩手からの参加者も。

## 月山の自然を描く ～松本哲男学長とめぐる写生会～(アートキャンプ)

多彩な講師陣で日常の生活にアートを吹き込む、芸工大の生涯学習プログラム。今回は、日本画家である松本学長が講師を務めた学修旅行をご紹介します。

何気ない日常の風景の中に四季の移ろいを感じることができる、自然豊かな山形。本講座「月山の自然を描く」では、西川町志津温泉を拠点に、中山町の大イチョウ、左沢の楯山公園、最上川などを巡り美しい景観をスケッチ。日本画家である松本学長が、五感を使って対象をとらえることや、自然を描く時のポイントを丁寧に指導します。深秋の月山山麓は、色鮮やかな紅葉と初雪が輝く絶妙な景観と、月山、姥ヶ岳、湯殿山、南側に朝日連峰を望む絶好のロケーションです。受講者は志津温泉に2泊3日の間滞在し、思う存分に美しい自然をスケッチブックに描き出していきます。地蔵沼や五色沼、黄金色に輝くブナ林を目にして「美しい景色に命が洗われる想いです」と、ため息をもらす受講者も。松本学長は、一人ひとりに声をかけ、刻一刻と変化し続ける自然に感動すること、音や匂いまで写しとることを呼びかけます。

スケッチブックの片ページいっばいに山々を描いた受講者には、「もったいない!」とスケッチブックを見開きにして山々を包む大きな空を描くことを提案。「雲の線だけでいいから描いてごらん下さい。自分の絵じゃないみたいになるから」と、冗談を交えながら生きた絵を描く楽しさを伝えます。「クレイにお絵描きをする必要はないんです。どんどん欲張って、メモを取るように沢山描いてください」という松本学長の言葉に、触発されるように鉛筆を走らせていました。今回は、温泉宿で学長を囲んでの講習会や、講師と参加者同士の親交を深める時間も設けられ、充実した2泊3日の講座となりました。受講者からは「定期的に芸工大に通う講座以外に、自分の時間に合わせてプログラムを選べるのが嬉しい」という声も寄せられました。自然に抱かれ、週末のまとまった時間を全てアートに充てる短期集中型の講座は、受講者たちにも好評です。



「初雪と紅葉と一緒に見られるなんて、すばらしい“ごちそう”」と語り、指導する番場准教授。



鉛筆を走らせた後は、今ある自然の色彩を写すように、すぐに着色を始めた受講者の田口さん。



「年を重ねるに従って、五感を使うことを忘れてしまいがちです。とにかく自分の目や耳、肌で感じ手を動かすこと。そうすると生き生きとした何かが見えてきます。そこに、カルチャースクールとは違う、生涯学習の学びの素晴らしさがあります」松本哲男 [学長、美術科教授]



「松本学長にお会いできる、貴重な機会だと思い受講しました。若い時に絵を描いていましたが、グラフィックデザインの仕事に就いてからは仕事のためのデザインばかりやっていました。これからは、自分のために絵を描きたいと思っています」田口隆広さん [受講者]



## 2011年度受講生の募集は、2月中旬スタート予定です。

芸工大の生涯学習プログラムでは、みなさんの「日常の暮らし:Life」を中心に、「+ART」「+DESIGN」「+SLOW」という3つのプラスをテーマに設定し、学びの場をご提案しています。第一線で活躍するアーティストやデザイナー、作家、研究者が名を連ねる芸工大の教授陣が、その道の技術や理論に、深みのある文化や情報を加えて開講。暮らしやお仕事を、より豊かで実りあるものにするきっかけ作りになるはずです。

皆さんの暮らしや興味の度合いに合わせて、学びの入口は幅広く設定しています。講座は数日だけの短期集中のものから、学修旅行型、週末や平日の夜間を利用した連続した実技講座など、内容や時間もさまざま。芸工大ならではの資格取得講座もご準備しています。また、じっくり15週間をかけて大学の正規授業を学びたいという方向けの、セルフビルド型という選択肢も。ただ今、2011年度開講分の資料請求を受

け付けております。すでに資料請求をいただいている方へは、2011年度版パンフレットが完成次第お送りいたします。お問合せは下記窓口までお気軽に。東北芸術工科大学 生涯学習プログラム担当  
TEL: 0120-25-8160 (受付: 月～金 9:00～18:00 ※土日祝休み) FAX: 0120-41-2154  
E-mail: exte@aga.tuad.ac.jp  
WEB: http://www.tuad.ac.jp/plusart/

## OPEN GALLERY

## EVENT SCHEDULE WEB

在学生、卒業生の皆さんへ

東北芸術工科大学の広報誌「g&amp;g」では、イベントなどの告知や公募展などでの受賞情報をお待ちしております。東北芸術工科大学 広報室へお気軽にご連絡ください。

## 1/11-2/28

求め、創造の天才。

企画構想学科長の小山薫堂教授が審査員を務める、腕時計ブランドのフランク・ミュラーによるアートコンペが開催中です。詳しくは下記HPにて。

「フランク・ミュラー「時の哲学」

募集期間：1月11日(火)～2月28日(月)

WEB：http://crazy-artist.com/

## 1/15-3/21

彫刻と里山の美しいコラボレーション

大学院彫刻領域修士の菅原隆彦さんが、茨城県桜川市の各地で開催される雨引の里と彫刻2011展に出品します。

「雨引の里と彫刻2011」

会期：1月15日(土)～3月21日(月) 9:00～17:00

会場：茨城県桜川市

TEL：080-6545-6507

## 1/16-23

素材が刺激する感性をご覧ください

工芸コース(金工・漆芸・陶芸)とテキスタイルコースの2年生35名は、専攻する素材に触れながら、一歩ずつ歩み始めています。今回の展示では、一年間の学びの成果としての課題作品を展示します。

「工芸コース・テキスタイルコース2年生展」

会期：1月16日(日)～23日(日) 10:00～17:00/月曜休館

会場：悠創館(山形市上桜田366)

## 1/22

地方でクリエイティブに働く事を考える

2月に開催される国際会議のプレイベントとして、現映像学科卒業生の鹿野さんも参加した、トークイベントが開催されます。

「地方でクリエイティブに働く・生きるー生活圏の重なりが作るローカルティール仙台の事例」

日時：1月22日(土) 14:30～17:00

会場：東京ミッドタウン デザインハブ

スピーカー：logue、鹿野護(WOW アートディレクター)、小川直人(せんだいメディアテーク)

参加費：2,000円(定員70名、要事前申込)

## 1/22,23

紅花の魅力再発見。初水で紅花染体験を

テキスタイルコース企画のシンポジウム・ワークショップ「紅花ルネサンス vol.3」を開催します。

22日(土)には、本学敷地内の染料博物館(畑)にて(種)より収穫した紅花の「紅餅」を使用して、紅花染を行います。また23日(日)には、研究家を招いての講演・シンポジウムを開催いたします。

「紅花ルネサンス vol.3 山形→続・月」

(ワークショップ「寒中・初水での紅花染」)

日時：1月22日(土) 13:00～16:00

会場：本館前正面広場

内容：学生が栽培・収穫した紅花の「紅餅」を使用する紅花染

(シンポジウム)

日時：1月23日(日) 13:00～16:00

会場：こども芸術教育研究センターこども劇場

内容：講演、学生活動報告、ディスカッション  
申込不要/参加無料

## 2/26,27

未来を担う国際会議を山形で

サステナブルな社会づくりを目的とし開催される国際会議が、今年はローカル・サステナブル・コミュニティをテーマに芸工大で開催されます。詳しくは本紙4ページをご覧ください。

「第5回サステナブルデザイン国際会議」

(基調講演会)

日時：2月26日(土) 9:30～18:00(9:00受付開始)

会場：本館3階 201講義室(要事前申込)

(分科会)

日時：2月27日(日) 9:30～18:00(9:00受付開始)

会場：本館3階 各講義室(要事前申込)

お問合せ：サステナブルデザイン国際会議事務局

TEL 03-6826-1511/東北芸術工科大学 デザイン哲学研究所 TEL 023-627-2307

WEB：http://www.sustainabledesign.jp/

## 2/26-3/27

7名の作家からの発信

「けしきをいきる」をテーマとした板橋区立美術館でのグループ展に、映像学科の屋代敏博准教授が出品します。会期中はギャラリートーク、作家と一緒にワークショップ、区内の小中学生を招いた鑑賞教室なども開催されます。

「発信//板橋//2011」

会期：2月26日(土)～3月27日(日)

会場・主催：板橋区立美術館(板橋区赤塚5-34-27)

観覧料：一般300円、高大生100円、小中生無料

## 3/5-10

山形に集った個性。学生たちの集大成

2010年度卒展の出品作品のうち、美術科各コースの選抜された作品による卒業・修了展「東京展」を3月に開催します。各地から自然豊かな山形に集い、多感な時間を真摯に自己発見の創作活動に励んだ学生の熱い息づかいを、東京にて感じていただけるはず。

「東北芸術工科大学 卒業・修了展[東京展]」

出展コース：日本画・洋画・版画・彫刻・工芸[陶芸/漆芸/金工]・テキスタイル

会期：3月5日(土)～10日(木) 10:00～18:00

会場：外苑キャンパス(〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15)

入場料：無料

オープニングイベント：3月5日(土) 14:30～19:00

お問合せ：外苑キャンパス TEL 03-5412-6111



## 3/21

若き才能、旅立ちの日。卒業式・修了式

平成22年度 東北芸術工科大学 卒業式・修了式を以下の通り執り行います。式終了後、本館の教室で各学科・学系・コース等の学位記授与を行います。

「平成22年度卒業式・修了式」

日時：3月21日(月)

受付開始：10:00(開式10:30) (予定)

会場：東北芸術工科大学体育館

※当日、大学駐車場は大変混みあいますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



## 4/10

今年も新たな顔ぶれがそろう入学式

平成23年度 東北芸術工科大学大学院・東北芸術工科大学入学式を以下の通り執り行います。

「平成23年度入学式」

日時：4月10日(日)

開場：9:30(開式10:30)

会場：東北芸術工科大学体育館



※ここに掲載している写真は昨年度のもので、日程や内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

## WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉

未来へ枝葉を伸ばす「TREE」。

2010年度卒業/修了研究・制作展

芸工大の様々な学部、学科、コースで学ぶ学生たちが、分野を超えて一丸となり、これまでの集大成としての作品や研究発表を行う「卒業/修了研究・制作展」を今年も開催します。2010年度のテーマは「TREE」。山形の豊かな風土に根付いた本学を1本の「TREE」とし、そこに集った学生たちの個性豊かな才能、特色ある学びの成果を一枚一枚の葉に見立てています。自身の卒業制作としてポスターやフライヤーのデザインを担当したのは、松原沙希さん。今はまだ小さな存在である木の葉たちが、太い幹に力

強く繋がり、世界へ向けて勢いよく枝葉を広げる姿が表現されています。「いろんな色の個性を持つ学生のみんなが、葉となり、枝となり、細胞となって芸工大という大きな『TREE』を構築するイメージを表現しました。カラフルで元気で楽しい卒展になりますように!」という願いを込めて学生一人ひとりの姿を『TREE』を形作るカラフルなセルとして表し、卒業/修了研究・制作展を盛り上げています。未来へ向かい、様々な分野で枝葉を伸ばしていく『TREE』を、どうぞ会場にお越しになって体感してください。

イベント情報もたくさん!! 山形駅と大学を結ぶシャトルバスも運行予定です。最新情報は公式HPをご覧ください。  
http://www.tuad.ac.jp/sotsuten/

左のQRコードからケータイでもご覧いただけます。

「2010年度 東北芸術工科大学卒業/修了研究・制作展」

会期：2月8日(火)～13日(日)(会期中無休)

会場：東北芸術工科大学キャンパス

時間：10:00～17:30 入場無料

主催・お問合せ：東北芸術工科大学

〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5

TEL 023-627-2000 FAX 023-627-2185

E-mail public@aga.tuad.ac.jp



色鮮やかなグラフィックが目を引く、今年のポスター。